

62年度

シグマ特別専門委員会（シグマ研究委員会）議事録（案）

日時 昭和62年7月3日（金）11:00-17:30

場所 日本原子力研究所東京本部第3会議室

出席者 鹿園 直基（主査：原研）

飯島俊吾（NAIG）、五十嵐信一（原研）、井口哲夫（東大、中沢正治代理）

池上栄胤（阪大）、石黒幸雄（原研）、梅沢弘一（原研）、

大竹 巖（ISL）、岡下 宏（原研）、神田幸則（九大）、菊池康之（原研）

喜多尾憲助（放医研）、北沢日出男（東工大）、菅原 彬（MAPI）、

稲山一典（東北大）、瑞慶覧篤（日立）、関 泰（原研）、

関 雄次（FBEC）、竹田敏一（阪大）、中嶋龍三（法大）、

中村知夫（原研）、橋爪 朗（理研）、長谷川明（原研）、

松延廣幸（住友原工）、水本元治（原研）、宮原 昭（名大プラ研）、

村田 徹（NAIG）、若林利~~夫~~（動燃）

オブザーバー：浅見哲夫（原研）、中川庸雄（原研）

欠席者：金子義彦（原研）、田村 務（原研）、藤田薫頭（京大炉）

配付資料

- 1、61年度シグマ特別専門委員会議事録
- 2、61年度シグマ特別専門委員会及び運営委員会議題
- 3、第3期諮問・調整委員会中間報告
- 4、シグマ特別専門委員会内規
- 5、シグマ研究委員会の構成
- 6、JENDL-3データ評価者及びファイル担当者一覧表
- 7、62年度シグマ特別専門委員会名簿
- 8、1988核データ国際会議資料
- 9、2年報編集委員会報告
- 10、荷電粒子核反応データベース（NRDF）作成の現状
- 11、大学における核データ活動
- 12、IAEA Consultants' Meeting on Data Requirements for Medical Radioisotope Production
- 13、崩壊熱評価ワーキング・グループ活動報告
- 14、核データ専門部会活動報告
- 15、炉定数専門部会活動報告

## 16、核構造データ・ワーキング・グループ活動

### 議事

#### 1、主査挨拶

この中で新委員の紹介があった。

#### 2、運営委員会報告

五十嵐氏から資料2により、昨年の本委員会以後の運営委員会で討議・検討された事項について報告が行われた。

#### 3、諮問・調整委員会報告

楢山氏から資料3により第3期諮問・調整委員会の中間報告があった。これまでに討議された主な事項の(1)シグマ研究委員会とシグマ特別専門委員会との関係、(2)ENDF/B、JEFへの対応、(3)核データの利用分野の拡大・特殊目的ファイルの作成・若手の養成について説明があった。

#### 4、事務局報告

浅見氏から、昨年改訂された内規(資料4)及び62年度のシグマ研究委員会の構成(資料5)について説明があった。また、楢山氏から内規について補足説明が行われた。

#### 5、JENDL-3編集グループ報告

浅見氏から資料6を用いて、JENDL-3の収納核種・評価者とともに編集状況について報告があった。その中でベンチマークテストを行う主要核種のファイル化を優先的に行っており、それらをJENDL-3Tと呼ぶことにしたとの説明があった。

#### 6、委員会人事

浅見氏から、資料7の62年度委員の運営委員会案の説明とともに提案がなされた。これに対して、資料7の名簿中の幹事はシグマ研究委員会に属するものであって内規にある幹事とは別であるとの指摘があり、幹事を削除して了承された。運営委員は松浦氏から金子氏に、河原崎氏から水本氏に代わる以外は現委員が継続することにした。また、諮問・調整委員も現委員にもう2年継続してもらうことにし、河原崎氏の代わりに水本氏、木村氏の代わりに藤田氏が加わることにした。

#### 7、核データ国際会議準備状況

五十嵐氏から、来年5月の核データ国際会議の開催場所を水戸プラザホテルに決めて予約したこととともに、資料8により会場・第2次案内の概要、今後の準備予定、招待講演等について説明があった。

## 8、原子力学会関係

### (1) 崩壊熱基準研究専門委員会

中嶋氏より、最近発足したこの委員会（主査：加藤氏（名大））の設立主旨、構成、第1回会合の様子等について報告があった。

### (2) 学会特別会合

中川氏から、原子力学会の秋の分科会での核データ・炉物理合同特別会合の演題、講師、座長等の紹介があり、この案を学会のプログラム編成委員会に提出するとの説明があった。

### (3) 2年報編集委員会

長谷川氏から資料9により、60・61年度のシグマ特別専門委員会の作業報告の編集手順とスケジュール、執筆者について報告があった。

## 9、国内研究機関での核データ活動

### (1) 核データ小委員会

池上氏から資料10により、北大が中心となって進めている荷電粒子核反応データベースNRDF作成の現状について説明があった。データは共同研究機関である核研か阪大核物理研究センターに申し込めば利用できるとのことであった。NRDFと他の荷電粒子核反応データの活動との関係等について質疑応答があった。

### (2) 理研

橋爪氏から、理研で行っている医学用RI生産のための荷電粒子核反応データの活動について説明があった。

### (3) 大学関係

福山氏から資料11により、大学における中性子核データ関係の活動について説明があった。

### (4) 原研

水本氏からタンデム、リニアックでの測定の現状について、また、中村氏からFNSでの放射化断面積測定について説明があった。

## 10、特別講演

### (1) 共分散及び核融合核データに関するIAEA専門家会議の話題

神田氏から、昨年末に開催された国際会議2件の概要について報告がなされた。特に、核融合核データの専門家会議でのワーキンググループにおける討議・話題等が紹介された。

### (2) 医学用核データに関するIAEA諮問家会議

橋爪氏から、本年4月に東京で行われた標記の会議の概要・話題に

ついて報告が行われた。また、荷電粒子核反応データの評価の現状についても説明があった。

(3) 核融合ブランケット中性子工学に関する日米ワークショップ

中村氏から、標記のワークショップの目的、発表された代表的な成果、日米それぞれのLiデータの傾向等について説明があった。

11、61年度活動報告・62年度計画

(1) 核構造・崩壊データ専門部会

中嶋氏から資料13により、崩壊熱評価WG及び核種生成量評価WGでの成果の紹介があった。また、喜多尾氏から医学用原子分子・原子核データWGの活動状況について報告があった。

(2) 炉定数専門部会

長谷川氏から資料15を用いて、JENDL積分評価WGと核融合炉・遮蔽定数WGの61年度活動状況の報告と62年度計画の説明があった。62年度はJENDL-3のベンチマークテストを主体に活動を進めるが、2つのWGを6つのサブWGに再編成して活動を行う等の説明とともに作業スケジュールや他の委員会との関係等について説明があった。

これに対して、扱う炉定数について質疑応答が行われた。また、炉定数作成に関連して崩壊熱用の炉定数ライブラリーの扱いについて議論があった。

(3) 核データ専門部会

村田氏から資料14により、62年度の核データ専門部会の新組織とともに各WGの61年度活動状況、62年度の計画の説明があった。また、飯島氏から特殊目的核データWGでの当面の作業目標等について説明があり、質疑応答が行われた。

(4) 常置グループ

中川氏からCINDAグループでの日本からのCINDAへのエントリーの現状について説明があった。また、五十嵐氏からWRENDAGループの状況について説明があり、メンバーの若返りが提案されて了承された。

12、核データ研究会準備状況

瑞慶覧氏から、準備委員会の報告として次のような説明があった。今年の核データ研究会は11月11～13日に開催する予定であり、研究論文発表募集についてアンケート調査を行った。アンケートを集計してプログラム案を作成する。

以上